

校長就任のごあいさつ

東京都市大学附属中学校・高等学校校長 皆川 勝

この4月より、東京都市大学附属中学校・高等学校の校長に就任いたしました。「むさこう同窓会」の皆様には、日頃より、本校の教育や運営のため、ご支援をいただきありがとうございます。

始めに簡単に自己紹介をさせていただきます。私は、1979年に武蔵工業大学を卒業し、同大学院修士課程を修了しました。その後、母校に教職を得て、2020年度まで東京都市大学（旧武蔵工業大学）の教員として40年間を務めました。教員としての最後の3年間は副学長として都市大の教育全般を担当いたしました。

私の大学時の専門は土木工学です。英語ではCivil Engineeringといわれるように、「市民・社会のためにどのように工学を活用するか」という学問分野です。特に「理系の人材における文系的な知見・センス」、「文系の人材における理系的な知見・センス」が大変重要な分野です。一方、トシコー（旧ムサコー）は国立志向の生徒が多く、しかも理系教育に武蔵工大付属の時代からの伝統があり、すでに全生徒対象のSTEAM教育、幅広い教養教育、アクティブラーニングも長年にわたって中等教育機関として実践しています。生徒たちには、何事にも知的好奇心をもって前向きに取り組むことの重要性を説いております。

さて、専門家には知識（Knowledge）、スキル（Skill）、態度（Attitude）の3つが必要であると言われます。生徒たちの学びにおいても、あるいは部活などにおいても、知識の獲得やスキルの向上（What do you learn?）は必須ですが、いずれにも学ぶ態度（How do you learn?）は重要です。「学ぶ態度」は「価値観」（Why do you learn?）から生まれます。学ぶことが「どのように役立つのか?」、「どのように大切なのか?」、「どのような満足感につながるのか?」という問いに対する答えが、生徒一人一人の「価値観」を形成するよう手助けをすることは学校の重要な使命です。

中高生は生徒、大学生は学生、と日本では呼ばれます。海外では、生徒も学生も students です。動詞は study、「勉強する」と訳すこともありますが、「研究する」という意味もあります。もともとは「何かに没頭する」という意味です。学びは単に与えられるものではありません。「学びたい」という気持ちが大切です。生徒ひとりひとりの「自ら学ぶ」気持ちを大切にして、先生方と協力して生徒たちを応援したいと思っています。

都市大の建学の精神は「公正・自由・自治」です。自由にはいろいろな意味があります。英語では、freedom は「拘束からの自由」を、liberty は「選択の自由」を意味します。ま

た、オーストリアの精神科医・心理学者であるヴィクトール・フランクル（1905-1997）も自由の意味を教えてください。彼とその家族はユダヤ人としてアウシュビッツ強制収容所に収容され、すべての家族を失いましたが、本人は生き残りました。フランクルによれば、人間は「何かからの自由」と「何かへの自由」という二つの自由性を有しており、特に後者の自由は良心に基づいて行動することの「選択の自由」であり、これこそが人間の人間たるゆえんであるとされています。本校の生徒ひとりひとりが大きな「選択の自由」、「何かへの自由」を得られるように、東京都市大学グループのグループ歌「夢に翼を」における、「翼」を持つことができるように、尽力したいと思います。

校名変更までは「ムサコー」の愛称が定着していた本校が、「トシコー」となって 10 余年が過ぎました。武蔵工業大学や附属中学校高等学校の卒業生の方々からは、校名が変更されて愛着が薄れたという言葉の時おり耳にします。固有名詞が変わってしまったのですから、よっぽど深くコミットしていないかぎり愛着が薄れるように感じるのは仕方のないことかもしれません。しかし、人間の血脈のように、本校という実体に受け継がれる精神や伝統があれば、名称の変更を乗り越えて、本校の在校生・卒業生の繋がりをこれからもさらに強固にしてゆくことはできると思います。好例としては、卒業生によるキャリアスタディ活動が挙げられます。この取り組みは、本校の完全 6 年一貫教育のなかで、生徒たちの学習意欲の増進と人間的な成長にとって極めて重要な意義を有しており、本校の教育成果に直結しています。「ムサコー」卒業生の方々のご支援を通じて、「トシコー」生は着実に成長を遂げています。ぜひ本校と本校の生徒たちをこれからも愛情をもって見守り、またご支援をいただきますよう、重ねてお願い申し上げます。